

スカウトに慕われ、保護者に信頼され、

スカウトを成長させられる指導者の養成 3

スカウト運動を活性化させるのにはいろいろあるとは思いますが、「**指導者の資質の向上**」と「**楽しいプログラムの展開**」をして、「**明るく、元気で、楽しいスカウト活動**」の実現が大きなカギであると思います。**スカウト活動のキーマンである、団委員長、隊長などの団、隊の指導者のレベルアップが急務です。**こういふと、日本連盟役員は自分の責任を団委員長や隊長に押し付けていると云われる方もいらっしゃると思いますが、スカウト運動の主体者は、団委員長、隊長であり、それらの方々が活動しやすいように指導、支援していくのが、県連役員であり日連役員だと思ひます。スカウト運動における自分の立場と役割をよく理解して活動していかなければならないと思ひております。

スカウトの指導者として人の上に立つ人は、まず、**人間的として完成度（人格・品格・人望など）**を上げてほしいものです。私は、**指導者（管理者）**として身に着けて頂きたい条件は、「**スペシャルセンス**」、「**マネジメントセンス**」、「**コモンセンス**」、の三つにプラス、「**パッション**」があると思ひております。

- 1、**スペシャルセンス**：スカウト運動の歴史、原理、制度、スカウト技能、活動方法など、**自分が携わっている組織や、業務上の知識**などを有していることです。
 （会社経営でみれば部門ごとに、総務、人事、経理、開発、生産のことなど）
 スカウト運動としては、研修所や実修所、トレーナーコースやコミッショナー研修所やコミッショナー実修所などでそれなりの研修、訓練、指導などで知識を得ることです。
- 2、**マネジメントセンス**：**管理・統制・差異対応と結果管理でなく活動管理を行う。**
 従来、管理統制として結果が出てから再対応することが多かったですが、最近では活動管理として実施をしながら、計画通り進んでいるか確認して進捗管理をしております。管理者としては、この部分をしっかり身に着けなければなりません。BS訓練制度の中では、十分指導ができておりませんので、会社生活や、一般社会の講習会に参加して自己研修をして頂きたいです。（役職が上になる人ほど意識してください）
 団委員長実修所ではマネジメントスキルの向上を具体的に研修しております。
- 3、**コモンセンス**：社会の常識、良識、それを有することが結果として、**品格、人格、人望**に結び付いていくものと思ひます。英国の騎士、日本海軍士官のなどは、騎士なり、士官の前にまず、**良識ある人間たれ**と言われていたようです。「**指導者たる者**」まず「**良識ある人間たれ**」と思ひます。スカウト活動としても**人格形成の一環としてセーフフロムハーム（思いやりの心を育む教育）**を重点施策として取り上げております。
 隊長には、**さすが！！ボーイスカウトの指導者**といわれるような人になって貰いたいし、団委員長、隊長はそうなる様な努力をして欲しいものです。

+α、パッション: 新藤は優柔不断なところがあり、なかなか意思決定ができていないので、自分のモットーとして「スピード&パッション」を掲げ、そうなるように努めております。ボランティアだから仕事のようににはできないよ、という話も聞きますが、**私は仕事だろうとボランティアだろうと、引き受けたことに対する責任は同じだろう**とっております。しかし、スカウト運動にかかわる**指導者のモチベーション**は、本運動の維持発展にとっては極めて重要な要素であり、その理念、目的などその目標に向かって頑張っていくための**パッション**に繋がって行きます。時間とともに薄れていく**パッション**を、初心忘れずスタート時の気持ちになって行けるように多くの方々の支援で**モチベーション**を高められるようにして頂きたいものです。
(任期制で役務が変わることで、**パッション**が生まれるということも多々あります。)

奥島さんが日本連盟の理事長として、初めて静岡における全国大会の基調講演の中で「期待される指導者像」としてお話しされましたので皆さまもご承知のことと存じます。

期待される指導者像

- 1、子供たちが大好きで、子供たちが一斉に振り向いてくれるような、人間的魅力（コモンセンス）を持ち、スカウト活動の目的（スペシャルセンス）を明確に指示できる人です。つまり、**知性に加えて野性味を持った柔軟な思考のできる指導者**ではないでしょうか。
- 2、ボーイスカウトの団委員長や隊長は、スカウト一人ひとりをよく観察して、その**スカウトの力を最大限に引き出し、伸ばすように責任を持って指導**しなければなりません。
- 3、スカウト活動とは、指導者が確りした信念を持ち、自主的に活動し、自ら進んで学び、自律的活動により、独立心を養うという風な**「実践力・行動力を持ったスカウト達を育てる」**ことが、**スカウト運動の究極の目標**と考えております。

山中野営場の閉鎖について

山中野営場は、**1925（大正 14）年**、当時の少年団日本連盟理事**佐野常羽**が大洞沢に清らかな水が湧くのを発見し、ここを野営場と定め、指導者訓練所を開設したことから、ボーイスカウトの野営場としての歴史が始まり、**今年で 92 年目**を迎えました。**1925（大正 14）年の第 2 回指導者訓練所、第 2 回全国野営大会**を皮切りに、戦後には中央実修所、名誉スカウト特別訓練、1 級スカウト富士特別訓練、年長隊富士野営、各種研修所・実修所、リーダートレーナーコース、スカウトフォーラムなど、スカウトと指導者の養成のための野営場として利用されてきました。また、隊・団・地区・県連盟のキャンプの他、富士山に近いことから海外のスカウトも大勢この地を訪れました。その他、一般の方々への貸し出しを行い、ファミリーキャンプ場や日帰りキャンプ場としても利用されてきました。しかし、土地に関しては山梨県等からの借地であり、収支は支出の超過が続いている状況もありました。長年さまざまな検討や交渉が行われ、日本連盟では山中野営場検討委員会を設置しました。閉鎖か、あるいはどのような方法であるなら存続可能かの検討を行い、存続のため、あらゆる方向性を探り、関係各所との交渉も行いましたが、建物の老朽化やアスベスト問題、建て直し費用を含む財政面の問題等を考慮し、検討委員会は、平成 28 年 10 月 11 日に開催した理事会へ答申。断腸の思いで**平成 29 年 8 月**をもって閉鎖することとしました。

● 山中野営場お別れイベント（仮称）：8 月 19 日（土）～20 日（日）